

平成26年の伸銅業における安全活動と安全成績

安全委員会

(I) 危険予知徹底運動

1. はじめに

日本伸銅協会・安全委員会は、伸銅業における労働災害撲滅を目的とした活動を計画的に推進するため、昭和31年に設立された。昭和41年からは各年毎に労働災害防止計画を策定し、重点方針を設けることで、業界一体となった活動を実施してきた。安全ポスターの定期的な配布や安全標語の募集・安全クイズの実施等を通じて安全啓蒙を行い、地区の研修会や交流会などによる安全意識の向上も進めてきた。

会員各事業所では各年の重点方針を基に、それぞれの実情に合った活動を展開し、また対策を講じることにより、伸銅業の災害件数の減少を実現してきた。

休業災害の件数と災害度数率の推移を見ると、初めて重点方針を設けた昭和41年には543件の休業以上の災害が発生したが（度数率9.72）、昭和55年には136件（3.83）、平成元年65件（2.18）と著しい改善を示した。その後も着実な減少傾向を示し、平成21年には、10件（0.62）までの減少を達成するに至ったが、平成22年は、残念にも死亡災害が1件（1名）発生し、また休業以上の災害発生件数も28件（1.58）と前年の3倍近くにまで達した。平成23年も、死亡災害が2件（2名）発生し、休業以上の災害発生件数も27件（1.58）と前年とほぼ同じ水準に止まった。続く平成24年は死亡災害はなく、休業以上の災害発生件数も25件（1.52）と前年比微減となった。

平成24年の休業以上の災害報告を振り返ると、依然として「はさまれ・まきこまれ」災害の比率は高く、全体の約45%を占めている。機械と作業者が近接して行なう作業が多く残っている伸銅業では、「はさまれ・まきこまれ」災害に繋がる危険性が高くなる。

こうした背景の中、安全委員会では、平成23年、24年、25年は平成16年度以来となる「はさまれ・まきこまれ災害撲滅運動」を安全重点方針として取上げたが、平成26年も引き続き「危険予知徹底運動」を取り上げるとともに、「設備停止による安全確保の実施と指差呼称の徹底」を最重要推進実施事項として災害撲滅運動を展開することとした。

以下に、平成26年の安全活動並びに運動の成果について報告する。

2. 年度スローガン

いま一度 立ち位置 手の位置 周囲の状況 作業の前に 安全確認

3. 実施事項

この運動を進めるに当り、年初に実施要領を作成し、以下を実施した。

- 1) 主唱者は、運動のポスターを作成し年間スローガンとして各事業所へ配布する。
- 2) 主唱者は、安全標語の募集を行い、優秀作品を選び表彰する。
- 3) 主唱者は、「危険予知徹底運動」を目的とした研修会・見学会を開催する。
- 5) 各地区研究会では、「危険予知徹底運動」を目的とした、研修会・交流会を開催し、同運動を推進する。
- 6) 各事業所では、この運動を実施する主旨を全職場に徹底し、災害防止対策を実施する。

4. 年間の月間安全スローガン

平成26年においても前年同様に、伸銅協会予算の逼迫もありこれまでの年7回のポスター製作を年5回に減らしたが、各会員企業の事業所に配付し意識高揚に努めた。

- 1) 1月／2月 新年度重点方針徹底月間（ポスター制作中断）

いま一度 立ち位置 手の位置 周囲の状況 作業の前に 安全確認

- 2) 3月／4月 教育訓練月間

いつまでも学ぶ気持ちを大切に ルール遵守で安全職場

- 3) 5月／6月 安全意識高揚月間

いつもの作業と侮るな 常にリスクは変化する 危険を予知し安全行動

- 4) 7月／8月 夏期健康管理推進月間

仲間の健康見逃すな 一人一人が管理人 健康管理で安全作業ヨシ！

5) 9月／10月 衛生対策推進月間（ポスター制作中断）

みんなで進める職場の改善 心とからだの健康管理

6) 11月 はさまれ・まきこまれ災害撲滅月間

危ないぞ 言える勇気と聞く心 みんなで作ろう ゼロ災職場

7) 12月 年末災害撲滅月間

緩む気持ちを引き締めて 災害起こさず最後まで 家族と楽しく年末年始

5. 安全クイズ

伸銅協会予算の逼迫から、中断とした。

6. 安全標語の募集

危険予知徹底運動に役立ち、全員での安全意識の高揚を図るため、伸銅業従事者を対象に以下の観点の「安全標語」の募集を行った。

- ①不安全行動やヒューマンエラー防止に役立つもの
- ②KYTや指差呼称の実施に役立つもの
- ③5Sの実施に役立つもの

選考は、全国8地区の伸銅業安全衛生研究会より推薦された130点の第一次選考作品の中から、優秀作品10点・佳作66点を選考し、優秀作品には表彰状と賞金を、佳作には賞金を贈呈した。

優秀作品10点は以下の通り。

[最優秀賞 1点]

危ないぞ 言える勇気と聞く心 みんなで作ろう ゼロ災職場
三井住友金属鉱山伸銅株（三重） 西村 知紘

[優秀賞 9点]

ヒヤリで済んだその作業 隠さず上司に報連相 皆で摘み取る危険の芽
古河電気工業株（日光） 松本 雅之

不安全 見たらその場で即注意 掛ける言葉に思いやり
願う気持ちは無災害
古河電気工業株（日光） 横田 康之

「助け合う」心がつくる 明るい職場「思いやり」心ひとつで 快適職場
日本伸銅(株) 井田 亘

いつもと違う 音 臭い 五感を使って 危険予知
(株)藤井製作所 荘司 彰

ケガはしません させません！互いに声掛け安全確認
みんなで目指す〇災害
古河電気工業(株) (日光) 長南 義弘

新人の目線に合わせた安全指導 新たに気が付くリスクの目
いっしょに摘み取る職場の危険！
(株)SHカッププロダクツ 日向寺 豊春

トラブル時 止めたか 切ったか 動力源 守る手順で 〇災害
(株)UACJ銅管 大山 清一

止める勇気と待つ判断 手を出す前にKYT しっかり確認 ゼロ災職場
三井住友金属鉱山伸銅(株) (三重) 二之湯 和伸

話し合おう 違う目線で危険予知 みんなで育てる安全意識
(株)日本特殊管製作所 上田 淳

7. 関連業種との安全交流実施

安全委員会では、従来より東西合同安全委員会の機会に伸銅業の関連事業所を訪問し安全交流を行っており、平成26年は下記の事業所を訪問し、安全交流を行った。また、重大災害発生を受け、中災防の支援により、鉄鋼連盟による特別講演会を実施した。

平成26年9月26日～27日 (株)コベルコマテリアル銅管 秦野工場

8. 地区合同安全大会の開催

安全委員会では、地区安全衛生研究会との共催により関東地区と関西地区別の合同安全大会を開催し、事業所従業員への安全研修と交流を図った。

関東 平成26年2月6日(木)
中央労働災害防止協会からの講師派遣によるKYT講習会開催。

関西 平成26年4月18日(金)
(一社)産業安全衛生研究所専務理事 桑村 明男氏による
「職場における心の健康とパワーハラスメントの予防」開催。

(Ⅱ) 平成26年の年間安全成績

1. 安全成績

平成26年の安全成績は、死亡災害1件(前年2件)、休業災害15件(前年27件)、不休災害46件(前年52件)、休業度数率0.92(前年1.68)、強度率0.86(前年0.99)となった。

休業以上の災害発生件数及び度数率については、15件、0.92と共に前年(平成25年)に比べ減少した。

強度率については、重大災害が1件発生したため0.86で減少したものの依然として高い状況となった。

なお、不休災害の発生は45件と前年の52件を下回り、休業災害と合わせた災害合計発生件数は60件と減少しているものの、まだ高い水準となっている。

2. 休業災害発生状況

平成26年に発生した休業以上の災害15件の状況は以下の通りである。

1) 傷病程度

休業以上の15件を傷病程度別に見ると、死亡1件(前年2件)、休業8日以上9件(前年20件)、休業7日以下5件(前年5件)となっている。

2) 作業日別・時間別

作業日別では、第3作業日6件、次に第1作業日、第4作業日がいずれも3件、第2作業日が2件と続いている。

時間別では、10時～12時4件、14時～16時3件、22時～24時2件、2時～4時が2件と発生している。

3) 勤続年数別・年齢別

勤続年数別では、勤続年数10年未満が3件と最も多く、2年未満、3年未満、20年未満、30年未満が各々2件と続いている。

年齢別では、31歳以上40歳未満が6件、41歳以上50歳未満が4件、18歳以上30歳未満が3件と多くなっている。

また、非公式統計の経験年数別の発生状況では、5年未満が4件と最も多く次いで10年未満は3件、10年以上20年未満は2件となっている。

4) 原因別・部署別

27件を“動力運転災害”、“作業行動災害”、“特殊危険災害他”に分類すると、動力系9件（前年13件）、作業系5件（前年10件）、特殊災害他1件（前年4件）となっている。動力運転や作業行動系において、機械の取扱いに起因する動くものの事故は相変わらず多くなっており、はさまれ・まきこまれ系の事故も6件（前年13件）発生している。

部署別では、製板・条が4件（前年5件）、加工が3件、鋳造が2件（前年7件）などとなっている。

5) 傷名別・部位別

傷名別では、“不完全骨折・完全骨折”が合わせて9件（前年9件）と最も多くなっており、その他では、火傷4件（前年5件）等となっている。

部位別では、上肢部の指部が8件（前年10件）と多くなっており、次いで胸部となっている。

6) 平成26年度の年齢別・勤続年数別・部署別人員構成

別紙資料のとおり

(Ⅲ) まとめ

平成26年は上記の安全成績でも記したように、休業以上の災害発生件数および度数率については前年より減少はしているものの、重大災害も発生し、非常に残念な結果となった。伸銅業を含めた製造業全般においても、重大災害が多く発生しており、関係官庁からも注意喚起が求められ、業界内外での情報の横展開が強くもとめられている。この為本年度は理事会における講演会でも、安全に関する講演を開催した。

こうした状況の中で、安全委員会は、平成27年度の重点方針を「危険予知徹底運動」とした。ヒヤリハット、KYT、リスクアセスメント等を一層積極的に職場作業の中に取り入れ、さらに「指差呼称の徹底」を実践し、伸銅品の生産に従事する全員が平成27年度の無災害の目標達成を目指していくこととする。

(平成27年の年間スローガン)

作業の前に危険予知 動作に必ず指差呼称 実施で高める安全意識

以 上